第３回帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会　議事要旨

平成２８年６月２８日（月）１０：００～

視察　清川中学校ほか

会議次第

１　開会

２　学校施設の視察

（１）清川中学校

（２）清川小学校

（３）大空小学校

（４）翔陽中学校

3　会議

（１）第１回帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会議事要旨の確認

（２）本日の感想

（３）先進地の取組み状況

（４）その他

4　閉会

【配布資料】

資料 16　視察校の状況

資料 17　第１回帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会議事要旨

資料 18　先進地の小中一貫教育の取組み（当日配布）

１　開会　　委員１２名中、９名出席

【資料の確認】

３　会議

委員長　　議題（１）第１回帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会議事要旨の確認についてですが、何かご質問、ご意見ございませんか。

委員全員　　なし。

委員長　　議題（２）本日の感想についてですが、市内４つの学校を視察してまいりましたがその感想を各委員に伺います。

委員　　視察した大空小も一時はマンモス校として位置付けされた時期もあったようですし、そういう中において、だんだん子どもも減って来ている

という状況でありました。エリアの中において、大空小中１校ずつということですが、小中がちょっと離れていて、どうしてあのような作りになったのか、自分の中で疑問になりました。もう少し近くにあれば行き来が楽だったという気はしています。何を焦点として話をして良いのか、まだ整理はついていないですが、それぞれの学校において小中一貫しての教育をされていたのかなという気はしています。

委員　事務局に確認しますが、離れているということには、何か意味があるのでしょうか。隣接ではなく、ちょっと離した方が良いことなどがあったのでしょうか。

事務局　当時、どのような経緯で大空小中の位置が決まったのかはわからないのですが、真ん中に大空公園があって、その横に小中学校があるものですから、近いと言えば近いし、遠いと言えば遠いと言えます。市街地の小中学校で隣接している例としては、若葉小と第八中や啓北小と第一中です。市街地の小中学校で隣接しているところはあまりないのが実態です。

委員　大空小中は、大空団地が出来た時に、同時に着工されたのではないのでしょうか。

事務局　違います。小学校の方がだいぶ早いです。

委員　その間、中学生はどこへ行っていたのですか。

事務局　大空団地から第四中まで通っていました。大空小は昭和４５年に開校で、中学校は昭和４９年に開校したのです。

委員　生徒は、大空団地から第四中まで、歩いて通ったのでしょうか。

事務局　子どもたちは、自転車とバスで通っていました。

委員　今日、視察で清川小中や大空小に行って、小学校と中学校が、私が考えていた以上に、色んな面で連携をしているのだなというふうに思い、そういった部分で、非常に良く頑張られているのだなと思いました。また、それぞれの学校の環境や地域の特性が違っているということは、当然のことなのですが、施設的に、古い、新しいとか、居心地がいい、そうではないとか、機能的である、そうではないなど、施設面の格差が歴然としているということを目の当たりにしました。できるだけ早い時期に、古くなっている学校については、新しくしてあげたいものだなとつくづく感じました。しかし、そこに居る子ども達は、校舎が古いからということは関係がなく、本当に生き生きと元気に楽しそうに活動しているのだなと思いました。

委員　２つのことを述べたいと思います。

１つ目は、小学校、中学校に２校ずつ行きました。話しの中で、小中

連携という言葉が何回も出てきて、すごく密接に関わっているということを改めて感じました。

２つ目は、先ほどの大空の小学校と中学校が隣接していないのはなぜだろうかという話ですが、年代、時代の背景があるのだと思います。時代として、中学生と小学生が会うということをあまりさせたくないと思っていた時期があるのです。それは、中学生の行動の悪いこともあり、見せたくない部分がありました。だから、あえて中学校と小学校の場所は離れていて、どこの町もあまり隣接ということはないと思います。そういった昔の生徒指導の背景があるのだと思います。ただ、今の時代背景は、非常に市内どこの中学校も落ち着いており、小学校との交流が可能になっているのだと、今日は考えることが出来たと思っております。

委員　今回見させていただいた中で、小中の連携が思いのほか進んでいるという気がしました。例えば、これからすぐに小中一貫校を作る方向で動き出しても案外スムーズに動けてしまうのではないかと思うくらいの連携の仕方だったように思います。特に、小学校区域と中学校区域が変わらないような地域があるのですね。９年間、同じ顔ぶれで、学ぶわけですから、学びやすさはとてもあるのかなと思います。それは、学校の大きい小さいではなくて、その地域で子ども達を見てくださり、かつ、地域の方々がその子達の顔をよく知っているという意味でも、学校が地域の中心にあるということは、はっきりわかります。そのような学校を見させていただいた気がしました。ただ、子ども達の数が最初は多くいたのに、どんどん少なくなってしまうということは、やはり心配なところです。規模が小さいながらも学校の維持はできるのでしょうが、果たして、それが子ども達のために良いことなのかと思います。５人のクラスで、子ども達が算数を教え合いながら、正解、不正解とか言いながら行っている授業は、とても魅力的な授業であったのは確かですけども、それで一生進んでいけるわけではなくて、中学校に行っても５人というものはどうなのだろうかという気もちょっとしました。

委員　今日は、他の中学校や小学校を見るのが初めてだったので、すごく良い経験になりました。私も小中連携というのは、これから少子化になって、人数がどんどん減っていく中で、すごく重要なのかなと思いました。また、地域との連携という取り組みは大事であるし、清川小中が行っている取り組みはすごく素晴らしいことであると思いました。

委員　ハード面からでは、学校全体に老朽化が進んでいるという印象がありました。それから、学校によって、随分と環境が異なるのでないかと思います。恵まれている所は恵まれている。大変なところも、大変なりに

カバーはしているのですが、随分、努力をされているという印象を受けました。

それから、農村部の学校においては、地域との結び付きが大変強くなっているという印象を受けました。しかし、部活面では少し支障が出てきているようです。部員が足りなくなることで、他の学校と連合チームになるのか、それとも、今、札幌などでもやっている、最初から他の中学校の部活に所属するなど、そういうことを考えていかないと部活ができないというような状況になってきているという印象を受けました。

委員　少子化が本当にすごい勢いで進んでいるのだと感じました。視察した学校でも空き教室があり、別な形で使っているのですが、そういうところで、少子化がすごく進んでいるのだと感じました。

それから、学ぶ環境の違いを感じました。例えば、老朽化した校舎で受ける暗くて、寒々としているというような印象と、清川小学校のように、すごく木をふんだんに使っていて、大きな窓で、気持ちがこちらも明るくなるような印象とでは、あまりにも違いすぎて、同じ帯広市民の子ども達なのにというところで、ちょっと差がありすぎて、かわいそうだなという思いにもなりました。

あとは、地域連携というところでは、清川小の卒業生がみなさん親御さんになっていて、全部の行事に全部の親御さんが来るというのは、どこの地域でも考えられないことだと思います。やはりそういうところで、学校が果たす役割、このコミュニティの中ですごく大きな位置を占めているのだなということは感じました。

委員　まず、エリア・ファミリー構想についてですが、最初にその案を聞いた時に、そんなことができるのかなと、実は思いました。それまで、縦のつながりが、まったくなかったので、それが実現できるという確実性を全く感じていないまま会議に参加しました。しかし、教育委員会が、よく繋ぎをしていただいたおかげで、エリア・ファミリー構想がここまで広がっており、そのことは十勝の子ども達、帯広の子ども達にとっては、教師も含めて、とても大変良い関係作りをしていただいたのだなということを痛感しました。

そのような中で、今日、清川小中を見せていただきました。清川小へ行ってみたいという保護者はいらっしゃるのですが、清川小まで帯広から通うということは、夏は良いとしても、冬を考えれば、とても行けないので、帯広市内に通いますというお話も時々聞きます。清川小は、あれだけ恵まれた環境で、空間があるので、ここは、帯広市として、思い切って、帯広と清川の間のバス登校等を考えていただければ、もう少し、

児童が増えて行くのではないかと今日改めて思いました。難しい課題かもしれないませんが、稲田方面からは希望される方がいるということをお伝えしたいなと思いました。とてもステキな環境でした。

一方、大空小ですが、市内で１番古い校舎ということだったのですが、古いは、古いなりに、とてもきれいに使っている部分もあって、図書室などは、とてもきれいに先生達が整理をされていて、見やすい環境作りをされていたので、そういうことを考えれば、トイレとか、子ども達が使うところについては、古いは古いなりに、日常何度も行く場所の環境整備ということを、もう少し校務員さんも含めてできないものかなと感じました。でも、今日は、とても良い機会を与えてもらったので、私のところで保護者の方にもお伝えできる良い機会をいただいたと思っております。ありがとうございました。

委員　皆さんが言われたとおり、今回の視察では、特に小中連携を主眼に見たのかなと思っていたので、その観点からすると、小規模である清川はすごく良いなという、良いところが見えて、逆に、あえて言わせていただくと、大空小では、ちょっと雑然とした感じがしていて、大規模の良いところというのが見えなかったという気がします。ただ、今までずっと話題として出ていたように、少子化がどんどん進んでいるということは、子どもの数だけの問題ではないのです。社会がどんどん変わって行くということであり、仕事だとか、色んな環境が変わってくるということだから、それにどう対応したら良いのだろうかと思います。だから、連携する小中学校の清川だとかに送り込んで良いのやら、悪いのやら。教育面ではすごく良いけれども、親の方はどうなるのかなとか。それが子どもに波及したら、どうするのかなとか、色んなことを考えさせられました。

また、小中連携が進んでいるという話ですが、小学校と中学校の先生達は何の違和感もなく、ガッチリやれるものなのでしょうか。小学校には、小学校のやり方がある、とかそういうことは、全然ないのでしょうか。

事務局　小学校と中学校とでは授業の進め方や授業時間も違います。授業のスタイルが違う中、ここ数年、小中連携について働きかけを行ってきました。それぞれの学校でも、例えば、体育の先生を中心に授業交流するなど、中学校の授業の良さを小学校の先生もわかるようになりましたし、それから、中学校の先生も、ただ単に黒板に書くだけではなくて、考えさせることが大事なのだなということも理解してきていると思います。ただ、現場にいる全ての先生がそこまで今意識が高まっているかどうか

は、まだ途上だと思っています。

委員　　例えば、英語の授業を小学校まで取り入れたら良いと思いますが、そうなると、小学校であれ、中学校であれ、得意な先生がパっと入っていったら良いのにと思います。ただ、そうした際に、免許がないだとか、それは中学校の担当である、などというふうにならないのかなと思います。

委員　　一部の小学校では、中学校の先生が小学校に行ったりして、授業をやっている学校もあります。また、啓北小では、先生の応援で、英語のボランティアに地域から入ってもらっています。

委員　　柏小も一部入っていますよね。

委員　　柏小では、スポット的にやっています。中学校の先生方も忙しいので、定期的に、例えば１ヶ月２回というような組み方にしかなかなかできないのですが、中学校の先生が小学校の来て教えていただく機会があることは良いことだと思っております。

今年、外国語の関係で巡回指導教員が小学校に来て、５年生と６年生に外国語活動を教えていただいています。かつては、考えられないぐらい乗り入れがされているのです。逆に小学校の先生が中学校に行って指導をするということは、あまり聞いたことがないですね。

委員　　小学校の英語の授業でも、たとえばビデオを使ってやれる時間というのがありますよね。ビデオを使って授業をやる時には、そんなに他の先生の応援がなくても担任の先生だけでもできるのですが、例えば、お店で買い物をする会話のシーンをやる時には、店員さんと買い物をする人というふうに先生と子ども達だけだと、先生１人が子ども２、３０人を相手に授業をするものですから、そういう時に応援の人たちがいた方が良いなということで、学校支援ボランティアで英語のボランティアを入れました。だから授業によっては、毎週でなくても、授業内容によって応援の必要が出てきて、効果的になるという場合もあります。

委員　　地域連携は、清川のお話を色々聞いているとすごく良い感じで進んでいるなと思いました。しかし、地域連携を進めて深く入り込みすぎていくと、地域住民がモンスターペアレンツみたいに、教育にまで口を出してくるみたいなことはないのでしょうか。

委員　　その辺は、多分、心配はないでしょう。例えば、老人クラブだと、お年寄りが昔の遊びだとか、昔の道具を使って授業をやったりしているのですが、皆、老人クラブの方には感謝しているところです。

委員　　学校を支援する時に大事なのは、地域の人たちが、「これやれるよ」「こういうことならできるよ」ということよりも、学校が、「自分達の教育の

方針、学校方針はこういうものです」「教育目標はこうです」ということを、地域に発信して、その教育目標に対して地域で応援してくれないかという発信の仕方をしていかないといけないのではないかなと思います。だから、校長も、自分の教育目標、学校の教育目標というものを地域にしっかり伝えていくという義務や責任があると、私は思っています。そうすれば、学校支援というのは、余分なものでなく、むしろ効果的なことしかなくなってくると思います。曖昧だとダメではないかなと、私は思っています。大学では、多分、教育方針だとかは、みんなに伝えているのだと思いますが、地域でも、小中学校でも同じではないかと思っています。

委員　　多分、強く意見を言うのは保護者なのだと思います。地域の方々は、多分、教育の目標に対して、あまりうるさいことは言わないのではないかと思います。こんなことならお手伝いできるよ、というような優しい歩み寄りをしてくれるのは地域の方々なのですが、子どもを学校に行かせている保護者からすると、色々と意見があったりして、あまり厳しい教育をしていると、保護者からクレームが入ったりします。

小学校と中学校の連携の話としては、どこまでの連携を必要としているのかなというのはあって、例えば小中一貫にするための連携なのか、６・３・３制を敷いている中での、中一ギャップなどの諸課題を解消する為の連携なのか、その辺りが方向としてよくわからないのです。ただし、連携することは悪いことではないことは確かだと思います。

委員　　多分、地域で子どもを育てましょうということなのだと思います。それで、今までは、幼稚園は幼稚園、小学校は小学校のように全部、ブツブツ切れていたのですが、幼保小中が中学校区ごとのエリアとして関わることで、校長先生の顔がわかるようになり、何か問題が起きた時に、気軽に「この子について相談したいのですけど」ということが出来るようになりました。今までから見たら、相談しやすい環境が幼保小中の関係者が集まるエリア会議でできました。幼児、小学校、中学校の先生の中で、自分達が持っている課題が実は年齢別でも原点は同じだったのだということに気が付くような話し合いもされているのです。皆が、やはりそこに気を付けなければいけないということに、気が付いていくことができ、ない壁を全部開けてくれたのがエリア会議でした。

委員　　地域から学校がなくなる際に地域が反対する場合というのは、学校をおらが城と考え、教育ではない話になっているからだと思うのです。だから、難しさがすごくあるのだと思います。一生懸命に学校同士で連携するのだけれど、地域の人達が入って来ているかというと、そうではな

いのです。なぜかというと、学校は教育の中心であっても地域の中心ではないからだと私は感じているのです。

委員　学校評議員というものがありますよね。

委員　学校評議員の選定基準はなんでしょう。全然オープンにならないのです。どんな人が集まっているか。誰に任命しているか。それは、学校長が任命しているだけであって、地域には全然知らしめているわけではないのです。結果的にこういう人ですと言っているけど、なんであの人がなっているのだろうということが全然わからないのです。地域に開かれて評議員を選んでいるのだけれど、個人的にはそうではないような気もしています。

委員　地域との関係が、とても上手くいっている学校もあります。学校に来ている地域の人達を中心に、そのエリアを支えているのです。そうやって上手く行っているところもあるので、学校と地域の関係を全部は否定できないと思います。

委員　もちろん全部を否定しているわけではありません。地域の人達が非常に熱い思いがあることを知っています。だから、城なのです。その城を取られてしまうと困るのです。

委員　例えば、その機能を残して、ある学校を新しい城に持っていければ良いですけどね。

委員　上手くそれができれば良いのですが、城に対する思いが熱ければ熱いほど、上手く行かないのではないかと思います。

学校同士の連携は素晴らしく、いくらでも出来ると思うのですが、地域連携が出来て良い結果が生まれる地域と、連携が起きない地域があるので、地域を巻き込めるかどうかと見た時に、そこの１点で大きく進む方向が違うのではないかなという気がするのです。

委員　先程話題になりました学校評議員に関して、教育委員会は、各学校評議員について全部把握していますよね。選考については、各学校にお任せして、教育委員会はノータッチなのでしょうか。

事務局　校長先生からご推薦いただいて、そして、教育委員会から委嘱という形です。

委員　人柄などの査定はしているのでしょうか。

事務局　校長先生からのご推薦であり、地域の方が多いことから、そこは信用して、教育委員会としてお願いをしています。

委員　学校から挙がってきた推薦の名簿に、肩書きは付いているのでしょうか。

事務局　一人ひとりの経歴書などを、きちんといただいています。

委員長　　本日の論議をまとめさせていただくと、小中連携の取り組みは課題があるにせよ良い取り組みである思います。ただし、これがどこでも同じ枠組みで出来るかと言ったら、決してそうではないので、原点を抑えながら連携はするべきであると思います。

それから、地域連携については、規模に関わらず進めるべきだと思います。ただ、やはり色々な問題は、当然残る、存在するという気はします。

また、少子化でどんどん社会が変化していく中で、学校がどうあるべきか、ということについても考えなければならないのかなと思います。各学校の特性なども本当にそれぞれで違いますが、同じ税金を払っていても、子どもによって教育環境の良い学校と、良くない学校とで学ぶことがあります。それはそれで良いところもあるのでしょうが、それで良いのだろうかと思います。できれば、もう少し教育環境をできるだけ良くしてあげたいなという気がします。

委員長　　それでは、続いて議題（３）先進地の取組み状況についてです。事務局説明をお願いします。

【事務局説明】　資料 18

委員　　一つだけ質問します。横浜市立霧が丘学園。この学校は、３つの小学校が一緒になった時、校舎は、新設ですか。それとも、どこかの校舎を使いましたか。

事務局　　霧が丘第一小学校をそのまま活用したのだと思います。

委員　　私からも一点だけ質問します。同じ自治体の中で、小中連携だとか、小中一貫だとか方式が混在することは可能だと思ってよろしいのですね。

事務局　　小学校の校区と中学校の校区の問題だとか、様々な状況があるのだと思います。例えば、帯広市でやるとすれば、全ての学校が小中一貫で行けるかと言うと段階を踏んでいかないといけないと考えています。

委員　　その通りですけど、例えば、先行して、ここの地域はもう適しているよね、という時に、その地域だけ行うという選択ができるのかどうかということなのですがいかがでしょうか。

事務局　　行えると言えば、行えます。先程視察でご覧いただいたように、学校の老朽化はとても進んでいます。その中で、老朽化への対応は帯広市だけのお金では、到底、出来る金額ではございません。国の補助金を活用しようとする中で、小中一貫教育を取り入れるということも、一つの選択ですし、また、老朽化の対策として長寿命化を行うということも、一つの対策であると思います。なお、新しく学校を作るとなれば、改築しかないですから、老朽化対策としてではなく、小中一貫に関わる補助制

度を使うというのが、一つの手法として考えられるかと思います。

委員　　なるほどね。

委員長　　その他、事務局からお願いします。

【連絡事項】

４　閉会

委員長　　それでは、以上をもちまして、第３回検討委員会を終了します。お疲れ様でした。

委員全員　　お疲れ様でした。